

# Differentiation between patients with takotsubo cardiomyopathy and those with anterior acute myocardial infarction

メタデータ	言語: eng 出版者: 公開日: 2017-10-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/15919">http://hdl.handle.net/2297/15919</a>

学位授与番号	甲第 1682 号
学位授与年月日	平成 17 年 3 月 22 日
氏 名	井 上 勝
学位論文題目	Differentiation Between Patients With Takotsubo Cardiomyopathy and Those With Anterior Acute Myocardial Infarction (たこつぼ心筋症と急性前壁心筋梗塞との差異)
論文審査委員	主 査 教 授 金 子 周 一 副 査 教 授 渡 邊 剛 教 授 中 尾 眞 二

### 内容の要旨及び審査の結果の要旨

たこつぼ心筋症は、冠動脈病変なしに左室心尖部を中心とする広範囲の収縮低下を急性かつ一過性に呈する疾患で、左室の形態がたこつぼと類似することから命名された。臨床像および心電図所見は急性心筋梗塞と酷似し、両者の差異については明らかでない。本研究では、たこつぼ心筋症と急性心筋梗塞の臨床像および急性期の心電図所見の差異について、特に冠動脈病変部位に注目して比較検討した。たこつぼ心筋症 18 例と左前下行枝 1 枝病変の急性心筋梗塞 85 例を対象とし、急性心筋梗塞症例は病変部位により以下の 3 群に分類した。A 群：第 1 中隔枝および第 1 対角枝の両者よりも近位部に病変を有するもの、B 群：両者の間に病変を有するもの、C 群：両者より遠位部に病変を有するもの。得られた結果は以下のように要約される。

- 1 臨床像では、たこつぼ心筋症の症例は急性心筋梗塞の A 群、B 群、C 群のいずれの症例よりも高齢で女性の比率が高かった。最高 CK 値は、たこつぼ心筋症が A、B 両群に比し低値であったが、C 群とは差を認めなかった。
- 2 心電図所見では、①たこつぼ心筋症は A 群と比較し、下壁誘導 (II, III, aVF) で ST 上昇および Q 波を認める頻度が有意に高く、下壁誘導および V6 誘導で ST 低下を認める頻度が低かった。B 群と比較して、下壁誘導で Q 波を認める頻度が高く、下壁誘導で ST 低下を認める頻度が低かった。②下壁誘導での ST レベルの総和は、たこつぼ心筋症で、A 群および B 群に比較して高値であった。③V1 から V3 誘導までの ST レベルの総和 ( $\Sigma V1-3$ ) は、たこつぼ心筋症で A 群および B 群に比較して低値であった。④ $\Sigma V4-6$  と  $\Sigma V1-3$  との比は、たこつぼ心筋症 ( $0.84 \pm 0.40$ ) で A 群 ( $0.21 \pm 0.40$ ) に比較して高値であった。⑤上記の心電図所見は、いずれもたこつぼ心筋症と C 群の間で有意な差を認めなかった。

以上の結果より、たこつぼ心筋症は左前下行枝近位部病変の急性心筋梗塞とは臨床像および心電図所見より鑑別されるが、遠位部病変の急性心筋梗塞とは鑑別困難であることが示唆された。

本研究は、臨床上鑑別が問題となるたこつぼ心筋症と急性前壁心筋梗塞について冠動脈の病変部位に注目して検討し、鑑別の可否および鑑別点を初めて明らかにしたものである。たこつぼ心筋症の診断および鑑別に新知見をもたらし、循環器内科学の発展に寄与する価値ある研究と評価された。